

## 『希望の太陽』

R 5 . 1 . 12

今朝、生徒玄関の前に立つと、丁度東の山々の稜線の上にまぶしいばかりの朝日が昇りきったところでした。胸のうちに「希望の太陽」という言葉が浮かび上がってきます。

先日、本校10代校長藤井一道が逝去しました。敬語でないのは私の父だからです。昭和から平成へと年号が変わる3年間、校長を務めました。

その間、二度にわたって校舎から火を出し、当時の生徒、保護者の皆様、地域の方々には大変ご迷惑をおかけしました。新米教員だった私も、助手席に父を乗せて夜に校舎の周りを見回ったことを思い出します。

本校体育館には平成元年7月制定の「生徒会の歌」の歌詞が掲げられています。その歌のタイトルは「希望の太陽」。作詞は藤井一道、作曲は当時の教務主任、後に本校15代校長となられた松村明雄先生です。

その歌が作られたいきさつを私は知りません。創立70周年記念の折に作られた「光中新聞」縮刷版が校長室の本棚にあります。平成元年12月発行の第184号に「前期生徒会役員を終えて」と題された生徒の文章の中に「生徒会の歌『希望の太陽』が先生方のご協力によって出来上がり、よりいっそう生徒会活動が活発になりました。」の一文をようやく見つけました。その文章からは、生徒会の歌を作りたいという生徒の思いを教員の協力によって実現した様子がうかがわれます。

3題ある歌詞は、すべて「つくろう我らの学園を」で締めくくられています。当時の生徒のみんながもっていた、「自分たちの手で学校を作ろう」という気概を歌詞にしたのだらうと思います。

1題目冒頭、「たなびく雲をおしわけて、希望の太陽昇る朝」。今朝はまさにそのような朝でした。

公私混同も甚だしいお話でしたが、歴代校長の一人にまつわる話としてお赦しください。

ここに朝日の写真があればよいのですが、それを撮る技術が私にはありません。